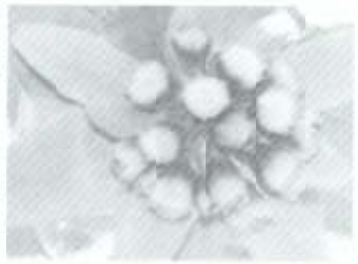
これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

◪しめきり　5月11日(火)

◪あて先　〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市企画課親子クイズ係

◪賞品　正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◎第36回親子クイズの答えは、**おたまじゃくし**でした。

第36回当選者発表（敬称略）

門田亮（久礼田）
西山喜代恵（大埇）
西川幸穂（大埇）
高橋興吉（田村）
高木美佳（前浜）

みんなの広場

club クラブ

2月13日に行われた市長杯ゲートボール大会に、**後免野田小ゲートボール部**も参加。そのときの感想を部員の2人が書いてくれました。

ぼくは「ゲートボール大会に参加するで」と言われたとき、ドキッとしました。だってクラブで大会に出ると思わなかったし、それに、強い人たちがいっぱいいると思ったからです。

でも、できるだけのことはやろうと思ってがんばりました。

最初は勝とうと思ったけど、だんだん自信がなくなりました。でも、練習をいっしょうけんめいがんばりました。

試合の日です。ぼくは絶好調だったので、うれしかったです。

堀尾竜一

「ほら、あの人が94歳のおばあちゃんだよ」と先生が言いました。ぼくは死んでしまったひいおばあちゃんのことを考えていたら、とてもこの目の前にいるおばあちゃんが、大事な人のように思えてきました。

ぼくが「おばあちゃんゲートボールうまいねえ」と言うと「うん」という元気な声が返ってきました。

試合は1勝2敗で負けたんですが、ぼくはゲートボール部にまた入ります。わけは、お年よりとの交流が何より楽しいスポーツで、おもしろいからです。大会はとても楽しいものになりました。

竹井伸吾

11～12日に学習と親睦をかねて島路）。今回はそのときの様子についただいた投稿と、奈路小5年生達に宛てたお手紙を紹介します。

雪中サッカーと石見神楽観劇
AS奈路倶楽部
雪の山里交流記

日本各地が二十年ぶりの大雪に見舞われた二月十一、十二日、AS奈路倶楽部総勢六十人（大人三十二人、子供二十八人）は島根県での草の根交流を楽しんだ。

まず初日はサッカー交流。大雪のため大渋滞に巻き込まれ、会場の松江商高到着は予定より遅れること三時間。その間ずっと、松江城南サッカークラブの皆さんはグラウンドの雪かきをしながら待っていてくださった。

もう日は暮れかけている。試合を始めたものの、とにかく寒い。グラウンドはシャーベット状でたちまち氷水がスパイクシューズに浸み込み、手足の感覚がなくなる。それでも試合は和気あいあいのうちにも真剣に行われ、一一〇でからくも勝ち。

夜は玉造温泉の国民宿舎で相手チームを交えての交流会。深夜まで少々オーバーワーク気味の交流が続いた。

二日目は出雲ドーム、ワイナリー、出雲大社を回ったあと、今回の一番の目的地、赤来町へ。ここは広島との県境の町。前夜来の雪は日中も降り続き、積雪は一㍍を超え、除雪された道路もアイスバーンとなっている。赤来町谷地区コミュニティセンター到着は二時間遅れ。ここでも谷子供神楽団の小、中学生、その父母らが雪かきをし、その雪で五㍍もあるかまくらを作り、神楽の舞台をしつらえ、さらにごちそうまで用意してわれわれの到着を今か今かと待っていてくださった。

この谷地区は戸数百二十戸、小学校全校児童十七人と奈路とよく似た所で、未来づくり放談会、国際交流セミナー、花街道づくり、そして昨年夏には子供神楽のインドネシア公演旅行と多彩な活動を続けている。この日に私たちのために子供神楽を特別に演じてくれたのだ。

出し物は「鍾馗」と「やまたのおろち」。勇壮で迫力に満ちた場面、躍動感あふれる舞い、そして雅子方の乃みな演奏、どれをとっても小学生、中学生が演じているとは信じ難いほどの見事さで、奈路の二供たちも前へ前へと吸い寄せられ見入っていた。

今回の旅で、決して恵まれているとはいえない地域でも元気な活動をしている人たちに出会え、温かいもてなしを受け、地域の楽しみ方、つくり方を学んだ。明日の奈路を考え、奈路のようにと言われる地域にしたいと願う私たちAS奈路倶楽部は、大きな収穫と宿題を背にしながら帰途に着いたのだった。

子供神楽の皆さんへ

奈路小五年　長曾我部聡子

とても楽しい神楽を見せてくれてありがとうございました。

私は赤来町にあんなにたくさんの雪が降っているとは思わなかったので、とてもびっくりしました。バスの中でも早く降りたくてわくわくしていました。

でも実際に降りてみると、とても寒くて雪遊びは少しあきました。でも神楽は少しもあきなく楽しかったです。

私は神楽を見たのはこれが初めてで、とても感動しました。私は踊りやおろちを退治するところがとても好きです。それにやっている皆さんが、とても上手でびっくりしました。私は神楽を見せてもらってとてもいい勉強になったと思います。雪もあって寒いと思いますが、これからも神楽をがんばってください。さようなら!!

思い出がいっぱい

◆春になったらおたまじゃくしを近くの田んぼからいっぱい取ってきて、バンのくずをえさにして、立派なカエルにして、田んぼにもどしてやります。

◆私の子供がよくおたまじゃくしを取って帰ってきて育て、カエルになり、家の中を跳び回り、大騒ぎしたことを覚えています。

◆子供のころ、おたまじゃくしをとってバケツに入れていました。何日かたってそのバケツを見たら、手と足があって緑がかっていたので、そのときにすごくびっくりしました。

◆子供に「おたまじゃくしはなま干の孫ではないわいな」という歌をおしえたものです。

◆子供のころ、うらの田んぼでよく見かけたものでしたが、今では土地が埋め立てられて、家がどんどん立ち並び、あまり見ることができなくなり、淋しさを感じます。

◆今はおたまじゃくしも親ガエルも非常に少なくなり、特にトノサマガエルはほとんど見られなくなりました。水のせいでしょうか。そのかわり、私の家の金魚の水槽には黒いカエルが住みつき、産卵します。

われらサークル仲間

元気な地域をつくるため、2月根県を訪れたAS奈路倶楽部（奈いてメンバーの川村一成さんから長曾我部聡子ちゃんの島根県の友

今回は中央公民館で活動している「ヨーガサークル（屋の部）」におじゃましました。

◇　◇

始まって約13年になる「ヨーガサークル」は毎週木曜日の午前10時から中央公民館の柔剣道室で行われています。指導に当たっているのは安岡芳徳さん。安岡さん自身、16年前に腰を悪くし、それを機にヨーガを始めたとのこと。メンバーは20歳代から70歳代の主婦ら約25人で、中にはご夫婦で参加という方もいます。

体を整え、呼吸を整え、そして瞑想で心を整えるヨーガ。お香の神秘的な香りが一層心に静寂をもたらしています。メンバーの体調に合わせ、無理がないように途中でリラックスを入れて、ゆっくりと体をストレッチ。「寝ころんでやるけど、すごく筋が伸びるんです。それに帰るとき、疲れが全然体に残りません」とメンバーたち。「年齢に関係なく自分のペースに合わせてできるのがいいですね。毎週1回、ここに来るのを楽しみにしています」と和やかに話してくれました。